論文番号　２１７

担　当

滋賀医科大学　福祉保健医学講座

題　名（原題／訳）

Prevention of a First Stroke. A review of Guidelines and a Multidisciplinary Consensus Statement From the National Stroke Association

脳卒中初回発作の予防-国立脳卒中協会の合同コンセンサスとガイドラインの要約

執筆者

Philip B. Gorelick, Ralph L. Sacco, Don B. Smith, Mark Alberts, Lisa Mustone-Alexander, Dan Rader, Joyce L. Ross, Eric Raps, Mark N. Ozer, Lawrence M. Brass, Mary E. Malone, Sheldon Goldberg, John Booss, Daniel F. Hanley, James F. Toole, Nancy L. Greengold, David C. Rhew

掲載誌（番号又は発行年月日）

JAMA 1999; 281(12): 1112-1120

キーワード

ガイドライン、コンセンサス、脳血管疾患、危険因子

要　旨

目　的

脳卒中初回発作の予防に携わるプライマリーケアー医のために最新のガイドラインを確立すること。

参加者

国立脳卒中協会の脳卒中予防指導委員会とセダース-サイナイ健康システム健康サービスリサーチ部門の部員が1998年4月9日に会議を行った。国立脳卒中協会によって選ばれた会議の参加者は神経内科医9名、循環器内科医2名、家庭医1名、看護職1名、理学療法士1名、健康サービス研究者2名であった。

証　拠

文献検索はMEDLINEデータベースを用いて、カリフォルニアのロサンジェルスにあるセダース-サイナイ健康システムの健康サービスリサーチ部門により、1990年から1998年分で行われた。脳卒中初回発作の予防に関する英語のガイドラインや声明、メタ-アナリシス、概説が対象になった。

合意の過程

会議では、指導委員会の構成員が6つの重要な脳卒中の危険因子（高血圧、心筋梗塞、心房細動、糖尿病、高脂血症、無症候性頚動脈分岐部閉塞）と4つの生活習慣因子（喫煙、多量飲酒、運動習慣、食事）を同定した。

結　論

詳細に記述された実行可能な循環器疾患と脳血管疾患の危険因子への幾つかの介入により脳卒中初回発作の危険性は減少する。高血圧治療、心筋梗塞後で心房細動を有する患者に対してのワーファリン投与、左室駆出率(EF)、は左室血栓の抑制、心筋梗塞後の患者にHMGCoA reductase inhibitors を使うこと、心房細動で特有の危険因子を有する患者にワーファリンを使うこと、60%以上の狭窄を有する患者に頚動脈分岐部拡張術を行う、などである。観察研究により、生活習慣に関連した危険因子（喫煙、飲酒、運動、食事）を修正することの脳卒中予防への役割が支持されている。アルコールの消費は直接量依存的に脳出血の危険を高める。脳梗塞については、J型の関係が指摘され、適量の飲酒は保護的に作用していると考えられているが、患者のアルコールへの依存を改善するよう援助することは脳卒中予防の重要な要素である。